

ほんごう

国立富山工業高等専門学校同窓会会報

No. 8 2004年(平成16年)10月発行

〒939-8630 富山市本郷町13番地

国立富山工業高等専門学校同窓会

発行責任者 石山 彰 雄

印刷 / 株式会社 宮越 印刷

いっぺんこられまあー

ほんごう会大懇親会開催

(平成16年度総会)

場所 / 名鉄トヤマホテル

会費 / 30才未満及び女性 ￥3,000

30才以上の男性 ￥5,000

新卒者 無料

恩師の先生方にも御案内しています。
本年度で定年をむかえる

物質工学科 杉森 滋 先生

環境材料工学科 浦井 茂雄 先生 が出席されます。

11月6日(土)

PM5:00~ 講演会

(物質工学科 杉森 滋先生)

(環境材料工学科 浦井 茂雄先生)

PM6:00~ 懇親会 (総会)

詳しくは富山高専

(076-493-5481) 河原教官

FAX (076-493-5481)

E-mail: kawahara@toyama-nct.ac.jp

なお出席の方は同封のがきにて、

10月31日までにお知らせ下さい。

多数の参加をお待ちしています。

寺田先生の講演



ほんごう会
大懇親会にて





ご挨拶

「独立行政法人化元年に寄せて」

校長 宮下 尚

富山高専同窓会の皆様方にはご清祥にてご活躍のこととお喜び申し上げます。また日頃は本校に対し、暖かいご支援とご高配を賜り厚く御礼を申し上げます。

全国の高専が本年4月に国立高等専門学校機構のもとに独立行政法人化されました。本校では、昨年は法人化準備年、本年は法人化元年と位置づけております。同窓会メンバーの皆様方として、高専の法人化に如何なる変化を感じておられるでしょうか。今のところ「大した変化じゃないよ」から規則等が代わり、「激変した」、「学生に対する教育方法が改善されるらしい」など様々ですが、通則法に基づく独立行政法人国立高等専門学校機構法により、高専の進むべき方向性を含む、行動目標としての中期目標・計画等が明確に示され、それに基づき、各高専が独自に5年間の年次計画を立てて、それらが遂行されたかどうかの評価されること等が、今までと大きく異なるところであります。

また、いままでは即戦力となる実践的技術者を育成することが主目的でした。機構法では、「職業に必要な実践的且つ専門的な知識および技術を有するとともに、我が国の高等教育の水準の向上と均衡ある発展を図ることを目的とする」とあります。高専教育の目的はより高度化したものになっています。更に、この目的達成のために「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施、その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと」が明記され、法令で、産学官連携の推進が求められています。このことは高専にとっては大変革であります。

法人化により、国立高等専門学校の裁量の拡大が

なされ、それによって各高専の「個性化・活性化・教育研究の高度化」の一層の推進が図られることが期待され、更に地域社会への貢献が謳われています。

今回の法人化により、学校の組織・定員や毎年度の予算に対して、いろんな干渉や様々な規制がありましたが、大幅に緩和されることになり、予算執行面での弾力化や組織運営面での多様化・個性化が推進されることになっています。

しかし、機構が法人化の見切り発車したわけでもないのだから、締め付け等を緩和し、各高専が個性化に向け努力していることにもっと積極的に対応して欲しいと思っています。曖昧な、消極的な応答ではいままでの縦割り文科省と変わらないと思います。むしろ、機構がミニ文科省・ミニ財務省になった感じがします。いくら法人化が定常状態に至る過渡期とはいえ、法人化元年の不慣れを差し引いたとしても、校長として学校運営や予算面において少なからず困惑しています。

それでも本校は教育、研究、産学連携を含む地域社会への貢献、国際交流、管理・運営に高度化のキーワードを付加させ、新生富山高専をめざして行きたいと思えます。折しも本校創設40周年に当たりますので、この度の法人化は大きなチャンスであると捉え、本校の活動の一層の充実に向けた自律的な取組を推進していきたいと考えております。

富山高専が更なる前進をしていくためには同窓会員諸氏をはじめ、役員のかたがたのご協力とご尽力、そしてご支援ご指導を賜りますようお願い申し上げます。同窓会の皆様がたのますますのご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

退官教官より



私の高専30年

環境材料工学科 浦井 茂雄

私は来年3月定年を迎えるが、あっという間の33年でした。初めて授業に出た時の新鮮さと学生の若々しさは今も思い出すことしばしばであり、また若い人たちに感謝している。

高専在職中に何人も学生が交通事故で、若くて、貴重な命を絶っていったことを残念に思えてならない。本人はもとより両親、家族が高専卒業を夢見ていたに違いないのと思うと心が痛みます。また中には一命をとりとめ現在も元気で幸せな家庭生活を築いている人もいることを思うと“運命”、“命のはかなさ”を感じます。

比較的最近の思い出としては私が3年生の担任と専攻科主任を兼務し辛い思いをした。専攻科主任というと主任の他に先生がいるように思いがちであるが当時の専攻科主任とは担任業務から運営会議まで全てが専攻科主任の仕事であり、専攻科主任1人で全てをやらなければならなかった。その他に学生に対する学位授与機構という第三者機関の学生の審査をパスしないといけないという大きな仕事、業務があった。3年生40人と専攻科生1、2年生併せて48人の相手をするのは大変辛いものがあった。

学校とは直接関係ないがなんと言っても忘れられないのは阪神大震災である。

我々科学、工学に携わる者として人間社会の大部分が科学で解決できると錯覚しがちである。

忘れもしない平成7年1月17日早朝、私は偶然にも自宅で朝起きていた。揺れを感じたので“結構大きな地震だな”と思った。そうするうちにテレビのニュースがどんどん入ってきて兵庫県南部で震度7の大地震

とのことであった。その後災害の概要が次第にわかり最終的に死者5千4百人、避難者32万人、家屋損壊10万6千棟などがわかってきた。私はその年の3月に私用に神戸を訪れ、国電がまだ全線開通していない神戸の街を見る事が出来、大地震の惨状の一部を自分の目で確かめる事が出来た。この惨状を見て思った事は自然の力に対し、人間の力、知恵なんて微々たる物だどつくづく思った。災害の翌年(平成8年)の3月には4年生の県外工場見学で学生が関西方面へ行きたいというので、学生と相談をし、是非この旅行の中に神戸の街の震災の一部を見学する時間を設けようということにして、語り部の人から当時の様子を説明してもらう時間を作った。この様な大惨事は何10年に1度かもしれないが学生諸君に見学させておく事は彼らの人生において貴重な経験になると思い計画の中に入れた。語り部の人に震災概要を説明してもらった当日某新聞社が一周年の特集を出すというので私どものクラスの学生に取材に来たのも彼らにとっていい思い出になったことと思う。その後さらに3年後明石高専へ行く用事が有り、その帰りに淡路島まで足を伸ばし震源地に最も近い北淡町を訪れる機会があった。水平方向に1.2メートル、垂直方向に0.5メートルずれた地面を現在も記念館として保存している。地震という巨大な力には人間の力など微々たる物だということを実感した。貴重なところを見学出来た。富山市も常願寺川の堤防が決壊したら大和デパートの3~4階は水に漬かってしまうことを今の若い人たちは知っているのだろうかと思うと恐ろしい話である。



とうとうやってきた定年退職

物質工学科 杉 森 滋

平成17年3月にとうとう私の定年退職の日がやってきます。振り返りますと、昭和45年4月にチッソ株式会社（以下チッソと略す）に入社、横浜の研究所に勤務、平成7年4月に富山高専に転職し、現在に至りました。チッソでは最初は何をやっても良いと云われましたが、数年たって水俣病の補償問題でおかしくなり、約束は反古になりました。その頃化学は将来が無いと世間で言われ、脱化学とかで基礎化学研究を目的とした研究グループは解体されました。色々な事情があり、液晶をやれと命を受け、いやいやながら液晶の仕事をする事になりました。

液晶を始めるにあたり上司が多く大学の先生に相談した所、殆どの先生はもう遅いと言いました。しかし、富山大学の宮下和雄先生一人が（不純な心と無責任で？）やって見たら良いと云われました。その頃、液晶に関する教科書は皆無で、物理化学の玉虫文一先生（大学で物理化学特論の授業を受けた。）の本に半ページほど記述があっただけでした。今では、液晶と言う言葉は子供でも知っていますが、私の云う液晶は液晶表示装置に使う液晶化合物で液晶表示装置そのものではありません。

そのような訳で、上司と「早くこのテーマはつぶれば良いな。」とブツブツ云いながらやっていました。当時（昭和50年頃）、液晶のメーカーはロッシュ、メルク、大日本インキが先行していました。いくら考えても先発の会社の化合物より良い物が出来ませんでした。昭和54年12月7日は私の人生で忘れられない日です。というのは、闇で研究していた化合物が偶然に液晶になったのを見つけたからです。この化合物の融点は26℃、液晶一透明点が23℃でした。私は、その夜遅く、その化合物の融点を測り、液晶相が出ないので今日の実験も駄目だったかと思い、融点測定装置から化合物を出し、冷えてから棄てようかと思いプレパラートを見たら液体が濁って液晶になっているのではないで

すか。暖房も切れた寒い部屋で実験をしていたから偶然に見つける事が出来たのです。昼間や夏の暑い日にやっていたら見つける事が出来なかったでしょう。この年の末から数年間は日曜、休日、年末、年始殆ど休まず早朝から深夜まで会社で実験をし、帰宅してから特許を書きました。勘定はしてませんが、出願は約500件、登録数は約250件、外国特許登録（ファミリーとして）約50件です。この年は特許部の予算を全部私が使って、なお不足したらしいが、後から聞いた話では、事業部長が黙って補正予算を組んでくれていた様です。この間多くの人達は、私の仕事に協力的であったかは皆さんの想像に任せます。10年後やっと商売になるようになりました。屈折率異方性が小さく、電圧保持率が高い性質で、世界のTFT液晶表示装置の約半分に使われています。ライバルのメルクも私の特許を研究して、私のやり残しで、追撃してきています。真似をされるのは少し気持ちが良いものです。この成果で平成10年3月に日本化学会より化学技術賞を仲間4人で受賞しました。

その間に色々有りまして、25年間勤めたチッソを退職し、平成7年4月より宮下和雄先生（私の成果を評価してくれた日本で数少ない先生）の世話で本校に赴任しました。大学の時に教職課程をとりました。大学院生の時に高校の時間講師のアルバイトしようと思っていました。指導教授がアルバイトはするな、自動車の免許などはいらない、実験をしろと言われたので、未だに自動車の免許は持っていません。富山では車が無いと少し不便ですが、ママチャリで充分富山ライフを楽しんでいます。しかし、教職課程の授業はその当時から、これは役に立たないなと思い、今でも役立つとは思えません。もっとも成績は不良でしたので大口は叩けません。...

当校での授業は、不安でびくびくしながらやっています。高校の教科書と言えども難しい事が書いてあり、

どの様に話をしたら分かってもらえるか、日々頭の痛いところで、現在に至っています。学生諸君ももっと努力をしてもらいたいものだと思いますが、自分の事を考えると、強く云えません。勉強の好きな人はそれ程居ませんよね！かく云う私は勉強が嫌いです。従って成績も良くありませんでした。勉強をする様になったのは、大学院に入ってからです。なぜ化学を勉強する様になったかと振り返ると、兄の影響が強かったと思います。電気も好きで、秋葉原に良く通っていました。液晶は、化学と電気の隙間です。

高専では、液晶化合物で自然光学分割する化合物を見つける事が出来ました。

この様な化合物は現在約250種類しか知られていません。会社と違い、気の向くまま研究できました。私は縛られるのが嫌いで（好きな人は居ないと思います

が）色々と迷惑をかけて会社では会社員らしくない、学校では教員らしくないと云われ、中途半端で63年間生きてきました。

この頃研究方法で少し気になることがあります。私達の時代は出きるだけ長く実験台の前に立ち（椅子に座って実験している危険だと怒られた。）、新しい化合物を合成し、出きるだけ純粋にし融点で確認していました。近頃は注射ゴッコ（ガスクロ等）をして、それに赤外、NMRでお終いにする傾向があります。私は効率悪くても、なんと云われようとも自分流で行きます。

クドクドと書きましたが、これからは若者に迷惑をかけない様に心掛け、無理をせずに、楽しみながら次ぎの仕事をしたいと思っています。最後に独立行政法人国立富山工業高等専門学校の発展、卒業生の活躍と健康を祈ります。

ク ラ ス 会 通 信

C29 安田賢生をかこむ会

C29 川 辺 真 弘

3月6日、異例の時期にC29クラス会を開きました。今回はいつもの“安田賢生をかこむ会”ではなく“祝！安田先生 教授昇進祝賀会”と題して開催され、いつもより多めの26名が集まりました。事の発端は平成16年1月16日に助教授より教授に昇進された事を何人かに知らせたところ、クラスの有志で何か記念になる物を贈ろうという話になり、それならば祝賀会を開いてその場でプレゼントした方が良いのでは？と話が進み、このような企画をしました。昨年のクラス会では、主役の先生が不在であったのに“ほんごう”に掲載してしまった事を、本人ならびに学校関係者に強くご指摘いただきました。今回はそのような事態が起らないように、先生に前もって予定を空けてもらい過密スケジュールの中、足を運んでいただきました。1月や8月の帰省時期ではないのにもかかわらず、東京・神戸・福井からと遠方から遥々駆けつけてくれ、また縁あってC28回生の谷川氏も参加していただき、いつもの顔触れと違う楽しい集まりとなりました。宴会途

中、くじ引きより選出したレディー(!?)により花束と贈り物を手渡しました。2次会では先生の教え子でもある本校専攻科卒生と合流する事になり、総勢35名の大宴会となりました。

今回の祝賀会は名誉教授になられた時に開催したいと思います。次の祝賀会も同様、安田先生にお世話になった人達で祝う会になるよう願っております。



M3クラス会報告

M3 石山 彰 雄

前回は、シドニーオリンピックの時に金太郎温泉にて総勢12名が出席して開催した。

今回は総勢8名で宇奈月ニューオータニホテルで開催した。

盆休みが少なかったことと景気の回復による繁忙で出席者が少なく残念であった。

次回は北京オリンピックの年に東京での開催となった。

関東地区の連中は富山から多勢押しかけるのでしっかり接待を頼む。



新役員あいさつ

同窓会としての貢献

副会長 4M 丸山 治久

この度、会長を補佐し富山高専同窓会の発展に努める事になりました。会員諸氏のご協力をよろしくお願い致します。

これまでも理事として理事会やほんごう会大懇親会の出席、柔道部OB会である「柔友会」や、富山市職員の内高専同窓生で構成する「本郷会」の運営を通じて、微力ですが同窓生とし活動して参りました。

昨年3月、要請されて学校の「リーダー研修会」で在校生を前にして講演会をする機会を得ました。力量不足で学生に落胆を覚えさせたことと思います。それに懲りずに、昨年11月に見識不足も省みず「教育改善評価委員会委員」を引き受け、学校の教育方法及び教育技術の向上を目的とする委員会に出席しました。この二つの事に関して久しぶりに母校を訪問し、学校施設、周辺環境、何よりも高専教育の現状の変貌ぶりに、まさに浦島太郎の感を覚えたのであります。委員会の中での討論や、本年9月開催された学校、教育後援会、同窓会の三者懇談会の報告等により、学校あげての教育改革に対する取り組みの真剣さを肌で感じました。社会の変革に呼応した

高等教育機関の在り方の議論を速やかに行い、教育改革の実践をする事が急務であります。シラバス(授業概要)、JABEE(日本技術者教育認定機構)、FD等、我々の在学時になかった色々の語句が今があります。また本年4月より高専が独立行政法人化され予算や組織の点で大きく変化致しました。少子化による入学試験倍率と入学者数の減少も予想されます。

時代の変遷に対応した教育改革と高専制度の確立が今、求められています。本年は母校の創設40周年を迎える節目の年でもあります。このことを契機に、我々卒業生はただ看過するだけでなく、当事者の一人としてこの課題に積極的に取り組む必要があります。我々の思いを一つにまとめ組織的に行動する事が、先輩として同じ学窓で学んだ者としての努めでもあります。そのためにも、まず同窓会の活性化を図る必要があります。同窓会を元気にする必要があります。

11月6日のほんごう会大懇親会には是非ご出席下さい。

事務局からのお知らせ

◎クラス会・クラブOB会の助成制度について

同窓会では今年度よりクラス会・クラブOB会の助成制度を設けました。この制度は会員間の交流を活性化することを目的としています。助成を受けることができるのは次の条件を満たしているクラス会です。

- 同じクラスの会員が10人以上そのクラス会に出席すること。
- 助成は1つのクラス(クラブ)につき年に1回のみです。
- 助成の申請はクラス(クラブ)の理事を通して行ってください。各クラスの理事は次の表のとおりです。
- 助成を受けた場合にはクラス(クラブ)会の報告書とクラス会の様子を写した写真を提出してもらいます。
- 申請はクラス(クラブ)会を行った年度内なら可能です。
- 助成金は原則として定例理事会にて交付します。理事が代理が出席してください。
- 助成は年間10件程度とします。

◎助成金申請方法

助成金の申請は次の項目を記載した申請書と写真を同窓会事務局へ持参してください。

- クラス(クラブ)名(M3,CK2のように)
- クラス(クラブ)の理事名と捺印,理事の連絡先(FAXかE-Mail)
- クラス(クラブ)会参加者名
- クラス(クラブ)会の様子など(400文字程度)
- クラス(クラブ)会のおときの様子を写した写真(添付)

申請書の書式は特に定めませんが同窓会のホームページに雛形を置いておきますのでそれを利用してください結構です。

同窓会理事名簿

卒業年	回	氏名	回	氏名	回	氏名	回	氏名
1969	M 1	後明 康孝	E 1	田中 正人	C 1	長谷川 登		
1970	M 2	永森 真一	E 2	大巻 憲五	C 2	清田 幸造		
1971	M 3	石山 彰雄	E 3	中島 潔	C 3	飛世 修		
1972	M 4	丸山 治久	E 4	木村 正人	C 4	柴 基雄		
1973	M 5	山崎 秀一	E 5	高木 正之	C 5	小川 和男		
1974	M 6	布村 敏夫	E 6	金子 信一	C 6	水林 幸雄	K 1	川井 祐賢
1975	M 7	寺井 達郎	E 7	天坂 幸治	C 7	広野 勉	K 2	宮崎 喜信
1976	M 8	宮越 成幸	E 8	富川 功	C 8	松永 政次	K 3	青木 宏志
1977	M 9	浦田 敏明	E 9	池上 久晴	C 9	牧野 啓行	K 4	磯野 忠
1978	M10	浅地 暁夫	E10	秋田 年哉	C10	永代 尚武	K 5	金井 毅俊
1979	M11	川開 国夫	E11	吉田 守	C11	長江 真司	K 6	中川 泰造
1980	M12	藤田 秀人	E12	深山 信一	C12	長越 進	K 7	福田 稔昭
1981	M13	木下 伸治	E13	開田 康浩	C13	八橋 謙二	K 8	奥野 耕市
1982	M14	松本 吉明	E14	高橋 靖人	C14	坂本 智司	K 9	菅野 英雄
1983	M15	田嶋 実	E15	佐藤 圭祐	C15	高松 雅春	K10	北島 博之
1984	M16	清水 龍人	E16	佐野川広嗣	C16	森川 光雄	K11	井上 誠
1985	M17	森川 幸夫	E17	中川 泰	C17	松原 重雄	K12	山本 肇
1986	M18	坪川 幾夫	E18	沢井 博明	C18	浅井 清	K13	山本 高志
1987	M19	副島 悟	E19	竹林 望	C19	山西 誠	K14	藤井 義昭
1988	M20	山野 茂	E20	新村 努	C20	柴野 勝宏	K15	山口 正志
1989	M21	西野 一也	E21	柿岡 史恭	C21	竹内 輝紀	K16	長谷川雅一
1990	M22	河原 治	E22	鎌仲 秀一	C22	栃折 智之	K17	清水 政孝
1991	M23	五島 康	E23	黒崎 勝彦	C23	佐伯 隆司	K18	広本 浩一
1992	M24	阿部 剛	E24	横井 英之	C24	荒井 毅宏	K19	高畑 英夫
1993	M25	日尾 武志	E25	久世 晃司	C25	久才 慎一	K20	藤丸 陽一
1994	M26	西野 武弥	E26	高柳 良太	C26	浅川 典昭	K21	藤岡 剛
1995	M27	米澤 正昭	E27	上田 智美	C27	吉田 功	K22	近藤 智幸
1996	M28	瀬戸 賢二	E28	藤原 健二	C28	堺井 哲朗	K23	藤井 濟
1997	M29	桑下 茂雄	E29	澤木 啓之	C29	川辺 真弘	K24	河下 竜世
1998	M30	高野 正章	E30	堀 宏美	C30	村中亜由美	K25	水林 舞
1999	M31	石田 敏晶	E31	佐藤 和也	C31	北尾 敦克	K26	川口 健治
2000	M32	菓子 貴晴	E32	山口 良博	C32	窪田 直彦	K27	高崎 慎一
2001	M33	松永 友宏	E33	荒井 秀允	C33	枝廣まゆみ	K28	水林 飛鳥
2002	M34	廣瀬 智博	E34	曲淵 仁美	C34	蟻川 倫乃	K29	平木 岳人
2003	M35	橋本 芳樹	E35	高野 維子	C35	森田 倫世	K30	熊田 俊吾
2004	M36	清水 和宣	E36	城光 力	C36	高井千絵子	K31	吉田 行野

専攻科

卒業年	回	氏名
1995	ME 1	坂井 歩
1996	ME 2	道用 浩樹
1997	ME 3	中水 康之
1998	ME 4	稲垣 聡
1999	ME 5	佐竹 克夫
2000	ME 6	西野 武弥
2001	ME 7	武埴 佳人
2002	ME 8	林 俊一
2003	ME 9	竹川 誠
2004	ME 10	山田 大介
1995	CK 1	古井 秀行
1996	CK 2	高稲 直宏
1997	CK 3	西島 昭弘
1998	CK 4	矢野 祥子
1999	CK 5	前田 功一
2000	CK 6	児玉 知子
2001	CK 7	岩井 徹哉
2002	CK 8	山本 圭一
2003	CK 9	南地さゆり
2004	CK 10	平木 岳人

役員名簿

	回生	氏名
会長	M 3	石山 彰雄
副会長	M 4	丸山 治久
副会長	E 6	金子 信一
常任理事	M 6	布村 敏夫
常任理事	E 7	天坂 幸治
常任理事	M 8	宮越 成幸
常任理事	K 8	奥野 耕市
常任理事	E 7	長田 晃
常任理事	M19	増山 圭一
常任理事	M22	河原 治
常任理事	C 24	中島 栄次
監事	C 3	米谷 正
監事	M14	本江 哲行

理事に連絡がつかなかったり忙しくて手続きをしている暇がない、というときには下記の方法で理事を交代することができます。

1. 理事を交代したいとき。
 - 新しい理事を選んで新理事と旧理事が連名で同窓会事務局

- 局まで交代する旨を書面で伝えてください。
2. 理事に連絡がつかないとき。あるいはまだ決めていないとき。
 - 理事をやってもよい人は同窓会事務局まで書面で伝えてください。

卒業生による講演会の実施（4回目）

平成13年から実施している卒業生による在校生への講演会を下記のとおり実施しました。

日 時 : 平成16年1月28日(水) 14時30分～16時
 場 所 : 富山高専視聴覚室
 テーマ : 「飛行機って面白い」
 講師 : 23M 足原 靖 氏 (日本航空整備士)
 参加者 : 3年生 約100名

講師は日本航空の一等航空整備士として活躍している卒業者ですが、自ら在校生のために協力したいと申し出ていただき大変感謝しています。忙しい時間を調整して頂き、奥さん共々講演会に協力してもらいました。

三者懇談会の開催

今回で7回目となる学校、教育後援会、同窓会の三者による懇談会を下記のとおり開催し、それぞれの活動などについて意見交換しました。

日 時 : 平成16年9月25日(土) 午後6時
 場 所 : 高志会館
 出席者 : 富山高専: 宮下 学校長
 松井 学生主事
 岩井 教務主事
 教育後援会: 野宮 会長
 浅野 副会長
 同窓会: 石山 会長
 丸山 副会長
 天坂 常任理事



第38回全国高等専門学校体育大会

- | | |
|--------------------------------|----------------------------|
| ・柔 道 (8/7 岐阜アリーナ) | ・バドミントン (8/7～8/8 富山市総合体育館) |
| 団体 予選リーグ敗退 | 団体 2位 |
| ・サッカー (8/7～8/10 富山南総合運動公園芝生広場) | 男子 ダブルス 3位 高崎 康弘 (4K) |
| 準々決勝敗退 | 山下 茂喜 (3K) |
| ・ハンドボール (8/7～8/8 愛知県体育館) | 3位 中西 亮 (5E) |
| 予選リーグ敗退 | 大石 勇佑 (5C) |
| ・水 泳 (8/6 福井運動公園水泳場) | 女子 シングルス 3位 松井はるか (2K) |
| 女子 400mリレー 5位 森下めぐみ (5C) | ダブルス 優勝 馬瀬口奈都絵 (3C) |
| 中村 紘子 (5E) | 松井はるか (2K) |
| 東福 麻央 (5C) | |
| 瀬川 縁 (4C) | |

その他の大会及び表彰

第37回近畿・東海・北陸・信越地区高等専門学校弓道大会 (7/29～7/30 兵庫県弓道場)

個人 4位入賞 高嶋 裕哉 (4C)

第11回全国高等専門学校将棋大会 (8/23～8/25 ホテル法華クラブ仙台)

団体戦 トーナメント1回戦敗退

個人戦 志村 将臣 (4C) ベスト8

西嘉山 徳之 (4K) 決勝トーナメント進出

志村 紀明 (1C) 決勝トーナメント進出

全国高専バドミントン大会を主管して

バドミントン部顧問 安田 賢生 (C6)

第39回全国高等専門学校体育大会、第28回全日本高等専門学校バドミントン選手権大会が8月7日(土)、8日(日)の両日、富山市総合体育館で開催されました。全国高専体育大会は毎年8月に持ち回りで開催されており、今年は東海北陸地区が主管する順番で、幸運にも(?)富山高専はバドミントン競技を担当することになりました。富山高専の第一希望は全国大会の常連であり、体育教員である松井先生が顧問をしておられる柔道でしたが、それはかなわず、第二希望のバドミントンということになりました。バドミントンが第二希望になったのは、今年まで北陸地区大会で団体9連覇中であり、また個人戦でもほとんど優勝し、柔道部と同様に全国大会の常連だったからだと思います。

全国大会を担当することが決まったのは2年も前で、一昨年の仙台大会と昨年の鹿児島(牧園町)大会を次期開催校としての立場で視察してきましたが、本格的に準備を始めたのは今年の4月からでした。運悪く、今年は北陸地区体育大会の主管も富山高専が担当でした。富山県バドミントン協会、富山市バドミントン協会および富山市総合体育館への挨拶と打合せ、線審の依頼のための高校訪問等を地区大会の準備と並行して進めていきましたが、今思えば大変忙しい日々を送っていたものだと感じます。

北陸地区大会のバドミントン会場は当初全国大会と同じ富山市総合体育館で、全国大会のリハーサルを兼ねるはずでしたが、富山市民体育大会と日程が重なり、滑川市総合体育センターに変更せざるを得ませんでした。北陸地区大会は「順当に」と言ったら他高専に失礼になるかも知れませんが、それこそ順当に団体戦は優勝、個人戦もシングルス、ダブルスともに優勝と準優勝を果たし、北陸地区枠と開催校枠ともに出場できることになりました。また、女子もシングルスとダブルスの両方を優勝し、全国大会は正にフルエントリーとなりました。

学生係の笹岡係長を始め学生課の皆さんおよび諸先生方のご協力のお陰で準備も何とか終え、7月26日の組合せ抽選会、大会前日の開会式&閉会式のリハーサル、代表者会議を経て、大会当日を迎えました。バドミントン部員は毎年の全国大会の出場で気が緩んでしまっているのか、あまり練習をしておらず、ホスト校としての面目を保てるかどうか心配をしていたのですが、団体戦は3年連続の準優勝、ダブルスは2組とも3位に入賞しました。また、女子はダブルスでは2年連続優勝、シングルスでは3位という成績でした。幸いにも男女とも好成績を上げることができましたが、この結果に驕ることなく、部員達には来年に向けてより一層の練習をしてもらえればと願っています。

文末となりましたが、本大会の開催に当たり、ご支援いただきました日本バドミントン協会、富山県バドミントン協会、富山市バドミントン協会、主審としてご協力いただきました社会人の皆様、線審としてご協力いただきました富山商業高校、不二越工業高校、富山南高校、富山いずみ高校、富山東高校、呉羽高校バドミントン部員の皆様、また資金面のご援助をいただきました富山高専教育後援会にこの紙面をお借りし、深くお礼申し上げます。



ロボコン報告

平成15年度のロボコンは、A/B両チームとも地区大会初戦敗退に終わった。その最大の原因として、走行系の弱さが挙げられる。14、15年度のロボコン競技は両者とも階段が盛り込まれていた。その難しさは、階段を下りるときの衝撃にある。今回は、本校2機の内1機が階段をタイヤで駆け下りるタイプ、もう1機がキャタピラで上り下りするタイプであった。タイヤ型の方は、階段を下りる時に走行モータのギヤボックスが壊れて走れず、キャタピラ型の方は、走行系の回路に過負荷がかかって走れなかった。

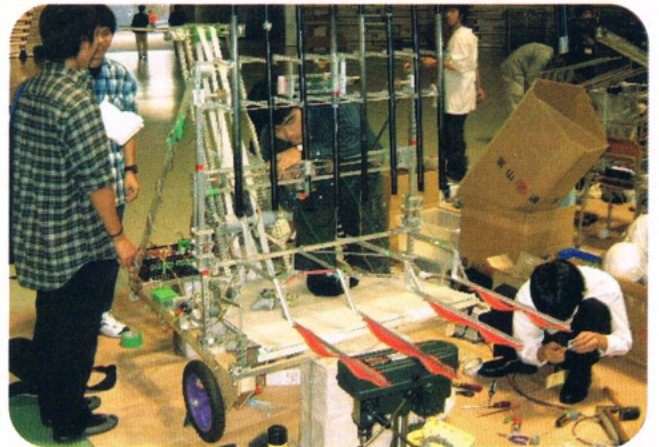


15年度の地区大会は例年に比べて早く、そのため、夏休み中に機体を完成させることを絶対目標にして作業を進めた。しかし、マシンは夏休みを終わっても完成にはほど遠かった。富山高専の学生の悪い点は、アイデアを実現する能力に乏しい(技術的センスがない)点である。(アイデアそのものは悪くない。)一番問題として大きかったのはキャタピラである。「階段の上り下りはキャタピラを使おう」と言うのは早かったが、誰も着手できず後回しになってしまい、結果として自分達の首を締めた形になった。

夏休みが終わり、校舎の改装に伴って活動場所を移動することになった。工作機械を含めて全て引っ越した。引っ越した先は体育館の2階。本来の作業場所に比べて狭く、暗く、暑く、とにかく作業がしづらかった。

切羽詰った状況で、前期末テストの期間中も活動を続け、機体の「形だけ」は完成した。本来ならば、こ

こからテストを1ヶ月ほど行って試合に臨むべきだが、富山高専は毎年テストなしのぶっつけ本番である。



試合前日、テスト走行をしながら調整をして、明日の本番に備えた。その日の夜も、回路班はビジネスホテルで寝ずの作業を行っていた。

試合当日、朝から作業を始め、最終調整をして本番を向かえる。結果は両機体とも初戦敗退。しかし、機体の1つ「濡れ手で泡」が、審査員の推薦によるエキシビジョンマッチへの出場権を獲得。観衆を沸かした。

平成16年度の競技は15年度のものに比べて幾分楽になっている。今年は、観客を沸かせるだけでなく、悲願の全国出場を果たせるよう活動しているが、15年度のつらさのためか、メンバーの人数が激減して苦しい状況を強いられている。それに加え、活動場所の問題についてもたらい回しにされ、うんざりしている。確かに毎年不甲斐ない成績であることは申し訳と思っているが、ロボコン部を「富山高専の御荷物」扱いされたり、「JABEEの会議に出たくないから全国へ行ってくれ」と言われたりするのには本当に悔しい。



- ◎ 富山高専ホームページアドレス <http://www.toyama-nct.ac.jp>
- ◎ 富山高専同窓会 ホームページアドレス <http://www.toyama-nct.ac.jp/OB-OG/>
- ◎ 「ヒューマンネットワーク高専」 ホームページアドレス <http://www.hnk.or.jp/>